

【様式 2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立神埼高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日

令和 7 年 2 月 1 8 日 (火)

(2) 資料 (評価の参考とした資料)

令和 6 年度神埼高等学校評価計画、学校評価アンケート結果、
令和 6 年度神埼高等学校評価 (案)、神埼高等学校の取組状況

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・目標は概ね妥当である。
- ・どの項目についても概ね達成されている。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・学校の取組は適切である。
- ・自己評価結果については妥当である。

③改善方策の適切さ

- ・改善方策については概ね妥当である。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

- ・目標は概ね妥当である。
- ・どの項目についても概ね達成されている。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

- ・学校の取組は適切である。
- ・自己評価結果は概ね妥当である。

③改善方策の適切さ

- ・改善方策については概ね妥当である。

3 その他学校に対する意見や提言

- ・学校評価アンケートの項目によっては、保護者が回答するにあたり、学校内での活動がわかりづらいため「そう思う」と回答するのは難しいものがある。生徒との評価に差が出ることは当然と考えられる部分はある。
- ・学校評価に関するアンケートについては、生徒アンケート実施後、その結果を保護者に公表し、それをもとにアンケートに回答してもらう形はどうか。
- ・家庭学習は、単なる「時間の長さ」ではなく、個々の生徒によって取り組む内容も時間も異なるものである。したがって、家庭学習を促す方向性としては、時間だけを増やすのではなく、個々の生徒が学習スタイルを見つけていくという形が望ましい。
- ・学校評価アンケート結果から、家庭学習状況は課題があるが、「授業を理解できている」と多くの生徒は回答しており学校の目標は達成できていると考えられる。
- ・ICTの活用については、教員間で差が出るのは仕方がない。
- ・生徒会活動で、生徒会役員を中心に考えているプランが形にできていない場合も、その過程でできていることは認め、実現に向けて改善策を考え支えていくことが必要である。
- ・インスタグラムの更新に時間を要することは仕方がない。文言のチェックの必要性に加えて、情報をSNS上にのせることのリスクがある。
- ・生徒たちは、今年度のSAGA2024 国スポや日本赤十字等のボランティアなど多く参加しており、積極的に活動し、また郷土についての愛着を高めていると考えられる。
- ・今年度はSAGA2024 関連業務のため、教職員の時間外勤務が増加したことや休暇の取得等が困難であったことは仕方がない。
- ・総合的な探究の時間の活動は、アンケート結果からみても生徒からの評価が高く、確実によい効果が出てきている。
- ・総合的な探究の時間の発表を大学生と一緒に行ってはどうか。探究のプレゼンテーションの能力も高まっているようであるが、大学生と一緒にプレゼンテーションの内容を考えたり、大学生が生徒の指導を行ったりする機会を持ってもよい。（神埼市中央公民館など）大きな会場で行えば、保護者を観客に探究活動の内容を知っていただく機会となる。
- ・「ことばの大切さ」について、生徒たちには折に触れ伝えていく必要がある。伝え方、伝わり方について、担任をはじめ教員から繰り返し伝えていく。マイナスの表現をいかにプラスの表現に置き換えていくことができるかを学ぶことも大切である。
- ・卒業時に高校生活が「よかった」と成長を感じることができれば、保護者の満足度が高まるのではないかと。三者面談以外で保護者と教員が話す機会があればお互いの理解が進むはずである。